

山梨大学 留学生 センターニュース

no.3
2007
MARCH

留学生センターの 3064件

山梨大学留学生センター長 須貝 千里



今年度は、学部の日本語教育、補講日本語教育、研修コース日本語教育、生活および修学の支援・指導の、さらなる充実に取り組んできました。

特に、生活および修学の支援・指導に関しては質量ともにきめ細かな取り組みを展開してきました。4月から12月までの相談件数は3064件（延べ数）になっています。学生一人あたり15回程（延べ数）、センター教員のもとに相談に来ていることとなります。さらなる質の充実をはかっていく必要がありますが、この数字はセンター業務の大きな成果を象徴的に示していると言えます。

その他、教職員、日本人学生との交流にも文化交流にも取り組み、大きな成果をあげてきました。また、就職支援活動、全学的な留学生の卒業生名簿の作成にも着手しました。

さて、4月になれば、またあらたな留学生が山梨大学にやってきます。本年度の反省を基にして、留学生の山梨大学での生活を支える取り組みの充実を図っていきます。そのために、全学とのネットワークをいま以上に密にすることが求められています。

留学生 センター 教員

伊藤 孝恵
第二部門担当



江崎 哲也
第一部門担当



高田谷 久美子
第二部門担当



長谷川 千秋
第一部門担当



奥村 圭子
第三部門担当



留学生関連の諸行事

第8回 たべもの異文化交流会 (2006/8/22)

「たべもの異文化交流会」は、留学生と地域の交流の場として、食を通してそれぞれの異文化への理解を深めようと、大学主催で行われている地域交流イベントです。2006年度は、8月22日に医学部キャンパス国際交流会館で行われました。中央市からは田中久雄中央市長を始めとして地域住民の方々、また留学生や大学関係者など約200人が参加しました。

今回は、中国からの留学生は餃子、火鍋、ちまき、インドネシアからは大豆や牛肉、大根の入ったバンドン風スープ、緑豆とココナッツミルクのデザート、その他にもイラクやモンゴルなどから、留学生が前日から準備した母国の自慢料理を披露しました。また、中央市の食生活改善推進委員会及びボランティア連絡協議会からは五目いなりやそうめん等の日本の味が用意され、参加者は各国の料理を堪能していました。大正琴の演奏の途中から、あいにくと雨が降り出し、雷もなってきた、参加者がテントに避難するといった場面もありましたが、何とか雨もやみ、スイカ割り、花火と満喫できました。最後の盆踊りでは、留学生が地域の方々に踊り方を教えてもらいながら楽しく踊りました。珍しい料理を食べることができるだけでなく、留学生と地域の人々が交流を深めることのできた1日でした。



実地見学旅行 (2006/9/20~21)

2006年9月20日~21日にかけ、留学生の実地見学旅行で、高山・白川郷へ行きました。参加人数は、留学生34名、引率教職員2名。

1日目は、途中のドライブイン数河でお昼に湯葉料理を食べた後、世界遺産に登録されている白川郷で、日本の生活の原風景が残されている合掌集落を散策しました。夜は高山市内に宿泊し、温泉につかったりおしゃべりに花を咲かせたりと、おもしろい夜を過ごしたようです。

2日目は、午前中は高山市内にある高山祭屋台会館を見学。江戸時代後期の職人芸の粋を集めた様々な屋台を鑑賞しました。その後、高山市内の朝市や古い町並みを散策し、古き日本の面影に触れた二日間の旅でした。



餅つき大会 (2006/11/4)

時期は早めですが、毎年恒例となっている留学生餅つき大会。今年は学園祭開催期間中に甲府キャンパスで行われました。

地域住民の方々の熱心な指導の甲斐あって、最初はへっぴり腰だった学生も何度か餅をつくうちに次第に上手になりました。つきあがった餅は皆で丸めてきな粉、ゴマ、大根おろしなどで和え、学園祭に来ていた人に配布しました。

初めての食感に驚きつつも、おいしそうに食べる留学生たちでした。



やまなし 大学スピーチコンテスト (2006/11/5)

県内の大学・短大に在学する留学生が日本語で競う「やまなし 大学スピーチコンテスト」が11月5日に開かれました。3回目となる今年度は、本学から山梨学院大学に会場を移して開催されました。スピーチのテーマは「秋～free and easy～」、熱く語るには少し難しい課題に24名の留学生が挑戦、事前の準備を重ね本番に臨みました。すぐれたスピーチが次々におこなわれていく中、優勝をかちとったのは山梨大学工学部3年の石峰さん、続く2位は山梨英和大学のナワラゲさんでした。石さんのスピーチは、期限切れのお弁当が棄てられる一方で食事に困っているホームレスの存在に気づいたある秋の経験を語る、という社会の矛盾をつくものでした。スピーチコンテストの後は、秋をテーマとするポスターセッションも開かれました（写真）。会の進行は、今年も山梨大学教育人間科学部芸術運営コースの学生が務めました。来年は、どんなスピーチが聴けるか楽しみです。



学長主催留学生懇談会 (2006/12/8)

学長主催留学生懇談会が学生会館ラウンジで行われ、留学生、教員、県の国際交流関係者などの来賓の方々、約150名が参加しました。学長の留学生交流の意義と更なる充実を語る開会挨拶の後、県の関係者をはじめ、諸団体の挨拶があり、その後、懇親の会となりました。

留学生による挨拶、出し物などが続き、会は大いに盛り上がり、国際交流、留学生交流を深めるタベとなりました。



外国人留学生等研究発表会 (2007/3/2)

これまで医学部外国人留学生等の参加を得て行われていた研究発表会ですが、今年度から全学から発表者を募って開かれることになりました。3月2日、医学部臨床講義棟にて、医学部から6名、工学部から2名、そして教育人間科学部から1名の研究発表がなされました。

発表は英語または日本語で行われ、日ごろの研究の成果発表に対して、各学部からの50名ほどの参加者からさまざまな質問が向けられ、活発な意見交換が行われました。

分野を超えて、ここに一つ学術交流の場ができたことは喜ばしいことです。来年度以降も幅広い分野からの参加が期待されます。



留学生センターの取り組み

第一部門 日本語教育部門

2006年度は、これまでのコースに加え、新たに中上級、及び上級レベルを対象としたコースが前期と後期に計4コマ開設され、学部生向け日本語科目は初中級から上級までの4レベル、計12コマが開講されました。また、受講生も大幅に増加し、延べ148名となりました。学部向け日本語科目とはいえ、大学院生や研究生の中にも受講する学生がみられ、これらの学生からのニーズも依然として高いのが現状です。

また上記学部生向け授業に、時間的制約から出席できない学生・研究者や、研究者の家族を対象とした日本語補講も、甲府キャンパスで計6コマ、医学部キャンパスで計8コマ開講されました。このコースは単位認定の対象とならないのですが、数多くの受講の希望があり、出席率も安定していました。レベルは入門から論文作成指導までと非常に幅広く、生活レベルの日本語の習得だけでなく、レポートや論文を書くといった高度な日本語能力の向上の一助となりつつあります。

さらに日本人学生、留学生がともに学ぶ「日本事情」、「異文化間コミュニケーション」も計4コマ開講され、自国の文化の振り返りや日本文化への理解の深化、また、異文化理解、ソーシャルスキルの発達につながっています。これらのコースでは延べ120名が受講しています。

今後さらに受講者を広げるようなカリキュラムづくりが課題となりますが、これについては、来年度、中上級から上級向けの授業としてプレゼンテーション・スキルに特化したクラス（「日本語演習」）を新たに開講する予定です。

担当：江崎 哲也 esakit@yamanashi.ac.jp 055-220-8752
長谷川千秋 hchiaki@yamanashi.ac.jp 055-220-8173

第二部門 留学生指導相談・文化交流部門

「留学生相談室」では、留学生に対する勉学・生活上の様々な相談に応じています。また、留学生チューターへの指導・相談も行い、チューターを介して留学生支援にもあたっています。留学生の日本での就職支援にも力を入れており、本学卒業生による就職講演会などを企画・実施しています。

「ランチ会」では、前期は火曜日、後期は金曜日の毎週お昼休みに、留学生と日本人学生とがお昼を食べながら交流しています。アットホームな雰囲気、誰でも参加できます。

また、留学生と地域の日本の方々との交流を図るため「ホーム・ステイ／ビジット」も行い、非常に好評でした。来年度にも繋げたいと思います。

ホーム・ステイ／ビジットの参加者からの感想

～ホスト・ファミリーの方々より～

- とても好意的な方で、こちらが負担を感じることがありませんでした。
このような機会を与えていただいて家族全員感謝です。
- 相互の国の文化等についてよく知ることができた。
- 留学生と受け入れ先のマッチングが適切であったのと、留学生本人たちの努力で、双方とも大変楽しく過ごせました。
我が家の子どもたちは、帰りの車の中でも、別れが悲しくて泣き通しで、～中略～ なだめるのが大変なくらいでした。よい企画をしていただいてありがとうございました。

～留学生より～

- 相手の家族と一日交流したことで、日本の家庭の姿が分かりました。相手のご夫婦とも仲良くなって、これからも会うということになりました。
- とても親切な人で、いろいろおもしろい所に行けた。
- 日本人がどのような生活をしているのか分かりました。



担当：(甲 府) 伊藤 孝恵 takaei@yamanashi.ac.jp 055-220-8753
(医学部) 高田谷久美子 kumikot@yamanashi.ac.jp 055-273-8289

第三部門 大学院入学前予備教育部門

当センターでは、2003年10月より主として国費留学生を対象として日本語研修コースⅠを年2期間、そして2004年後期より日本語研修コースⅡを年1期間開講しています。いずれも15週にわたって開かれる日本語のインテンシブ・コースです。

2006年度は、入門～初級初期レベルを対象とした研修コースⅠが前期と後期に、そして初中級～中級レベルを対象に研修コースⅡが後期に開講されました。

研修コースⅠでは週13コマ授業がおこなわれますが、ひらがなとカタカナ、そして基本漢字200を習得しました。コースの到達目標は、1) 日本語での日常生活の基本的なコミュニケーションができるようになること、そして2) 専門研究の指導を受けるために必要な日本語の基礎を学ぶことでした。研修コースⅡでは、週9コマ、15週間を通して授業がおこなわれました。コースの到達目標として、1) 読み書きを軸とする中級レベルの言語スキルを習得する、2) 自己開発能力を高める、の2点をあげています。

これらのコース修了の成果発表会では、日本の社会や文化に関して受講生が興味を持っているトピックについて、日本語で発表をしました。分析力のある、素晴らしい発表が多く、聴衆の皆さんも聞き入っていました。

〔2006年前期修了生〕



〔2006年後期修了生〕



担 当：奥村 圭子 kokumura@yamanashi.ac.jp 055-220-8152

山梨文化体験

ワイン造り体験 (2006/10/20)

ここ山梨では、秋になると色づいた葡萄があちらこちらで見られるようになります。その葡萄を果物として、そしてワインとしても楽しもうというのが、このワイン造り体験。

まずは葡萄を手でもぎ、そのまま食べ、そしてそれを足で踏んで100%葡萄ジュースを楽しみました。その後はおいしいおものにワインラベルを描き、約1ヵ月後、デザートワインのできあがり。

きっと山梨の甘い思い出の詰まったお土産となったことでしょう。



日本酒試飲ツアー (2007/2/17)

2月は新酒の季節。山梨銘醸では、昔からアルプスの水を生かした酒造りが行われていました。新酒の時期には酒蔵を開放し、低料金(300円)で様々な日本酒を試飲させてくれます。

留学生にも日本酒のすばらしさを知ってもらうために、醸造工程の見学、試飲(こちらがメイン?)をしてもらいました。

日本酒を十分に堪能したかどうかは・・・帰りのバスの中で皆すやすや眠っていたところからご推察ください。



学生からのエッセイ

私の山梨での一年 マティアス・ルドルフ Matthias Rudolph

(ドレスデン工科大学より、山梨大学に1年交換留学)

私は2006年4月に山梨に来ました。成田から甲府に行く山梨交通バスから東京も初めて見ました。甲府駅に着いたとき、山梨と東京の違いがすぐに分かりました。東京は都会だから、国際文化と外国人が充満している所です。一方、たくさんの日本人が言うように、山梨県はやはり田舎だと思いました。

しかし、実際に本当の日本を見ることができて、とてもうれしかったです。

山梨の人は優しくて親しみやすいので、友達がたくさんできました。先生や友達などは私を色々な所に連れて行ってくれました。そのうえ、三つの違う家族のお宅にホームステイをするチャンスがありました。それで私は本当の日本、そして山梨県の人々の生活も少し分かることができました。山梨大学、殊に留学生センターのおかげで、一年間里心も全然感じませんでした。日本語の授業では、学生は10人以下でした。勉強環境の条件はとてもよかったです。フリータイムには、興味があるところには、できるだけ行くようにしました。しかし、一年間はとてもはやくて短かったです。見たことと所がまだたくさん残っていますから、また必ずいつか日本へ戻ってきます。山梨へも。甲府へも。

支えてくださったみなさん、どうもありがとうございました。



山梨大学での交換留学体験 私の一期一会 リアン・ドン Liang Dong

(シドニー工科大学より、山梨大学に1年交換留学)

この一年間を通して、私は様々ないい経験をすることができました。最初に来日したころ、目標もあまりなかった私は、ただ毎日平和で静かな生活さえできれば満足でした。でも、時間が経つにつれて、多くの日本人と仲良くでき、どんどん生活が忙しくなり、山梨に住む魅力も感じるようになってきました。英語にもこういう諺があります。

"Time flies when you're having fun."

日本での生活も残りわずかになると、新しい目標ができました。卒業後私が持っている能力を日本で生かしたいと思い、就職活動にチャレンジしました。幸い、帰る直前に東京のあるIT企業から内定をもらい、来年の卒業後、日本で就職することになりました。

まさか山梨でこんなに魅力的で素晴らしい生活をするとは想像していませんでした。やはり私にとって日本で友達と出会ったことが一番大切な事でした。友達がいてくれたから、私が思っていた以上に楽しい生活ができました。友達が応援してくれたから、どんなに辛いことでも、自分が持っている力を信じ、あきらめずに取り組んで、乗り越えられました。シドニーに帰っても、今まで積んだ経験によって、卒業までの最後の一年間、一生懸命頑張って、どれだけ成長できるかチャレンジしていきたいと思います。



Oxford Brooks University Summer School Report

工学部循環システム工学科3年 塚島由美

山梨大学の提携校、オックスフォード・ブルックス大学のサマースクールにおいて、私はイタリアやドイツ、スペイン、トルコなど多くの国の人と同じクラスで授業を受ける3週間を送った。午前中の授業では主にディスカッションとプレゼンテーションを行った。内容は、結婚や仕事、イギリスだけでなく世界の国々についてなど様々であった。途中で、発音練習やコメディやロミオ・アンド・ジュリエットのビデオを見たりすることもあった。また、イギリスの文化を学ぶ授業やリーディングの授業もあった。毎日授業後には観光や買い物、スポーツなどのソーシャルプログラムがあり、時間を有効に使うことができた。寮も清潔で、快適に過ごせた。イギリスの文化だけでなく、多くの国の英語の発音の違いや文化の違いなどに触れることができたのは、素晴らしい収穫であったと思う。コース終了後、当大学から参加した3人で計画し、出かけた旅行では、スコットランド、湖水地方やリヴァプールなどを回ったが、大きな事故やけがもなく、いい経験と思い出となった。

授業で多くのことを学び、授業以外でも楽しく活動でき有意義であったので、将来留学し、外国で勉強してみたいという考えが一層強まった。この語学研修に参加することができて本当に良かったと思っている。



英語のクラスメートと



日本へeメール



寮のキッチンで自炊



コース終了後3人で企画したイギリスの旅へ

2007年前期 授業予定

学部留学生向けに、新たに「日本語演習」（水曜Ⅱ時限）クラスが開講されます。

2007年度（平成19年度）前期 日本語関連授業時間割					
	月	火	水	木	金
I 8:45～ 10:15		日本事情Ⅰ（伊藤）		初中級ⅠA（奥村） 上級Ⅰ（長谷川）	
II 10:30～ 12:00	中級ⅠA（長谷川） 研修Ⅰ（奥村）	研修Ⅰ（奥村） OH（伊藤）	日本語演習A（江崎） OH（伊藤）	研修Ⅰ（江崎）	研修Ⅰ（伊藤）
III 13:00～ 14:30	研修Ⅰ（奥村）	研修Ⅰ（奥村） OH（伊藤）		研修Ⅰ（江崎）	研修Ⅰ（伊藤）
IV 14:45～ 16:15	研修Ⅰ（二宮） OH（奥村）	研修Ⅰ（江崎） OH（高田谷）		研修Ⅰ（江崎）	研修Ⅰ（伊藤）
V 16:30～ 18:00	OH（長谷川） 甲府・補講（二宮）	異文化A（奥村） 中上級Ⅰ（江崎） 甲府・補講（井上）	中級ⅠB（伊藤） 初中級ⅠB（江崎） 医学部・補講（二宮）	OH（江崎）	
VI 18:15～ 19:45		甲府・補講（井上）	医学部・補講（二宮）		医学部・補講（二宮） 18:00～19:30
VI以降	医学部・補講（高田谷） 19:00～20:30				医学部・補講（二宮） 19:30～21:00

※OH：Office Hour

4月以降の予定

- 4月2日（月） 10:00～ 留学生ガイダンス（新入生向け）
13:00～ プレイスメント・テスト 場所：Y-11
(日本語関連科目の受講を希望する人は必ず受けること)
- 4月11日（水） 13:00～ 日本語研修コース（大学院入学前予備教育）開講式
- 4月12日（木） 前期授業（予備教育）開始
- 4月13日（金） 前期授業（学部生向け）開始
- 5月7日（月） 日本語補講開始
受講希望者は4月27日までに国際交流室に申し込むこと

発行 2007年3月20日

山梨大学留学生センター

〒400-8510 甲府市武田4-4-37

TEL 055-220-8047/8373

FAX 055-220-8374

MAIL yu-study-abroad@yamanashi.ac.jp

H P <http://www.akjim.yamanashi.ac.jp/isc/>